

## 《自然のタネ蒔き : その1. 風散布》

もうすぐ冬休み。生き物たちも厳しい冬を越し春を迎えるためにいろいろな準備をしています。種を作り、眠って寒さや乾燥を乗り越えるのもその一つですが、どのようにして蒔かれるか、その方法は植物によりそれぞれです。農作物や観賞用の草花とは違いますから、自分で工夫を持たなければなりません。今回から何号か続けて”自然のタネ蒔き”のお話をしようと思います。まずはじめは、風によって飛んでいくタネたちのお話。

### ①綿毛で風によって...



セイヨウタンポポ(キク科)



ヒメムカシヨモギ(キク科)



ふうっと吹くと、風によって飛んでいくタンポポのタネ。さーっと風が吹くと、風と一緒に逃げていくヒメムカシヨモギのタネ。どちらも羽毛のような軽い綿毛を広げて飛んでいきます。キク科の間にはこのタイプが多いようですね。ヒメムカシヨモギの大きな株になると、80万粒以上のタネをつけるそうです。

イネ科の間にもこのようなタイプは多く、ススキの綿毛は湿った日には閉じていますが、よく晴れた日にはパッと開き風に乗ってどこまでも飛んでいきます。ヒメガマの綿毛は羽毛よりも軽いそうで、1本の穂には10万~20万個のタネが詰まっているそうです。

←ススキ(左:イネ科)とヒメガマ(右:イネ科)

### ②翼を広げ...



クロマツ↑



ツクバネウツギ↑

種子本体の周りに種子の皮(種皮)や果実の皮(果皮)を薄く伸ばして広げ、

その翼で風に乗るタネ

←イロハモミジ

↓アオギリ

を作る植物たちもいます。松ぼっくりは晴れて乾燥した日に開き、翼を持った種子がくるくる回りながら落ちてきます。カエデの間も似たような形のタネを作りますね。校庭にも

シナノキ↓



あるアオギリは果実が舟のような5枚に分かれ、その縁に種子をつけて舟ごと回りながら落ちます。シナノキやツクバネウツギなどの変わったタネも翼を持っていて回りながら落ちます。

皆さんも、飛ぶタネの仲間を探してみませんか?おもしろいのがみつかったら教えてください。

[理科支援員 宮内]